

雪害対策

大雪時には、交通網の寸断により各地で除雪用品や日用品が不足する場合があります。食料、飲料水の備蓄や、停電時にも使用できる暖房器具があると役立ちます。スコップ等の除雪用品は、積雪時には入手が困難となるので、事前に用意しておきましょう。

不要不急の外出は避けましょう

- 大雪時は、不要不急の外出は控えてください。やむを得ず外出する場合は、滑りにくい靴、手袋を着用して両手を使えるようになります。自動車の場合は、次のこと注意しましょう。
- ・スタッドレスタイヤやチェーンを装着しましょう。
 - ・普段より多めに車間距離をとって運転しましょう。
 - ・カーブはゆっくり曲りましょう。
 - ・急な坂道など通行が困難な場所は避けましょう。



冬期の安全な道路交通を確保するため、町が行う除雪は幹線道路から優先的に実施します。

そのため、お住まいの地域の除雪に時間がかかる場合がありますので、早朝等の除雪作業にご協力ください。

また、積雪が予想される場合、事前に道路に張り出している樹木の伐採や枝下ろしをし、道路の安全確保を行うようにしましょう。

雪かき作業について

雪かきをする際には、次のことに注意しましょう。

- ① 強風や大雪などの悪天候時は、作業を控えましょう。
- ② 保護帽（ヘルメットなど）、滑らない靴を着用し、動きやすい服装で行いましょう。
- ③ 携帯電話などの連絡手段を確保し、二人以上で作業をしましょう。
- ④ 作業前の準備運動、十分な休息や水分補給を行い、体調が悪いときは無理をしない。
- ⑤ 庭に積もった雪を道路上へ出さない。

雪下ろし作業について

雪下ろしをする際には、次のことに注意しましょう。

- ① 作業中は軒下を歩かず、屋根にあがる際は、はしごの足元をしっかりと固定し、除雪道具はロープで引き上げるなどの安全確保を行いましょう。
- ② 命綱を取り付けましょう。
- ③ 暖かい日は屋根が滑りやすく危険です。午後の作業は特に注意しましょう。

緊急車両が通行できるように、近隣住民による雪かき作業の協力をお願いします。

冬期間における空き家の管理について

- ・空き家の状態がどうなっているのかを定期的に確認しましょう。
- ・所有者などが自分で建物を確認できない場合は、親類や近所の人などに依頼し、空き家の状態を把握するように努めましょう。
- ・建物が損傷している場合は、部材が飛散しないように処置しましょう。
- ・周囲の建物や道路に大きな雪庇（せっぴ）の塊が落下しないよう、小さいうちに落として、除雪しましょう。
- ・屋根の雪が大量になるまで放置せず、適切な時期に雪下ろししましょう。

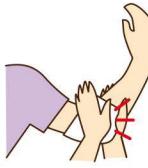
応急手当

救急現場において、その場に居合わせた人が適切な応急手当をすることで命が救われた例が数多くあります。緊急事態に応急手当を実施するためには、日頃から講習会等で知識と技術を学び身につけておく必要があります。

出血がひどかったら

① 傷口を圧迫する（圧迫止血）

ガーゼなどを出血している箇所に直接あてがって、出血を防ぎましょう。



② 傷口を心臓より高くする

骨折の疑いがあったら

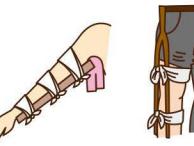
① 動かさないようにして、傷や出血の手当てを

骨が突き出たり、腫れや痛みが激しい場合は、骨折の恐れがあります。



② 患部を固定する

骨折箇所がずれないようにしましょう。首、脊椎、骨盤の骨折が疑われる場合は床に仰向けに寝かせて動かないように固定しましょう。



③ ビニール袋に氷等を入れ患部を冷やす

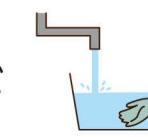
ショックや痛みによる顔面蒼白、震え、冷や汗が見られたら毛布などで保温しましょう。

※木、段ボール、雑誌、傘などを利用

火傷をしたら

① 真っ先に冷やす

できるだけ早く、痛みや熱さを感じなくなるまで、やけどの箇所を水で冷やしましょう。20～30分、しきりに痛みがやわらぐのを目安に。



② 冷やし方

流水の水圧がかからないように洗面器などに水と氷を入れてつける。それが難しい場合は患部にタオルをあて、その上から水を注ぐ。衣類は着たままの状態で冷やすのが鉄則。脱がす場合は、細心の注意を。



③ 冷やした後

十分に冷やしたらシーツ等でふわっと包み、患部を保護。中等症～重症は生命にかかわる事も多く、特に重症の場合、至急医療機関に搬送して全身管理をしてもらうことが必要です。



意識はないが呼吸はある場合

① 気道の確保

衣服やベルトをゆるめて体を楽にし、舌根が気道をふさぐ呼吸ができないのを防ぐため、呼吸をするときの空気を入りする道（気道）を確保し、救急隊を待ちましょう。



もし呼吸がなかつたら

人工呼吸 2回と心臓マッサージ 30回を繰り返します。

人工呼吸 2回

① 息を吹き込む

気道を確保し、鼻をつまみ、口のまわりから空気がもれないように約1秒かけて胸が上がる程度の息を吹き込みます。



② 口を離し、胸の動きを確認

口を離したときに胸が沈めば成功です。



心臓マッサージ 30回

① 準備

平らな場所におおむけに寝かせ、救助者は胸の横にひざまずく。肋骨の下半分（胸の真ん中）に片方の手を当て、もう片方の手を重ねて組む。



② 圧迫

腕をまっすぐ伸ばし、胸が5cm沈みこむように圧迫する。子供は胸の厚さの約1/3沈みこむくらい。



③ 繰り返す

1分間に約100～120回のリズムで強く速く、中断せずに絶え間なくする。

AEDが到着したら

ふたを開けて電源を入れ、機械の指示にしたがいましょう。

- 大まかな流れは、
 - 電極パッドを胸に貼る
 - 電気ショックの必要性はAEDが判断する。
 - 必要があればショックボタンを押す。

